

ティーチング・ステートメント

所属 横浜商科大学

氏名 永野智久

作成日 2020年9月17日

【責任】

経営情報学科スポーツマネジメントコース(202年度開設)に所属し、スポーツ科学を中心とした教育・研究活動を行っている。担当科目としては、初年次教育(社会力演習)、スポーツのユニバーサルデザイン、データサイエンス、ゼミナールである。また、スポーツマネジメントコースの全般の企画・運営にも携わっている。教務専門部会のメンバーである。

【理念】

スポーツ選手がそれぞれの環境に適したパフォーマンスを発揮するのと同じように、学生には「自己実現」に向けて、それぞれのフィールドでよりよく生きるためのスキルを獲得して欲しい。主体となる「自分(=個)」を理解するために自分なりに考え、それを効果的に伝える。何事にも「楽しさ」を見出すことで前向きに取り組むこと探究心を養う。一人では解決が難しい課題に対して仲間と協働する。社会というピッチでプレーするための準備(トレーニング)を学生と半学半教の関係で進める。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、「主体的に動く」「好奇心を刺激し関心を高める」「振り返る」「仲間をつくる」という方針で活動している。

「主体的に動く」

- 講義中のグループ(or個人)ワークや、ゼミナールでの個人研究においては、テーマを一方的に指定することはせず、学生自身が決めるようにしている。
- 学生が決定したテーマについては、学生自身が責任をもち、主体的に研究を進められるように、研究相談の機会を設け支援する。

「好奇心を刺激し関心を高める」

- 関連する最新の情報から過去の重要な情報を、学生に主体的に調査するよう促し得ている。
- 講義で扱う具体的な事例などを、学生の身近な、馴染みのある範囲のものを扱う。
- 講義時間外でSNSなどでの情報共有、コミュニケーションの場を設定し、常に刺激をする。

「振り返る」

- 講義後には、簡単な課題や問いを設定し、思考を整理する時間を確保し、知識の定着を

促している。

- 課題の内容には、整理した知見を下に、知っている、わかっているを「できる(=アクション)」につなげていくプロセスを学生が意識できるよう促している。
- 学生同士の振り返りを共有することで、俯瞰的な捉え方ができるように促している。
- 初年次教育の講義では、個人面談を実施し、大学生活全般を振り返る場を設定し、学生の振り返りを促している。

「仲間をつくる」

- ディスカッションの機会を多く設けることで、自分をアピールすると同時に、他者を理解する機会とする。
- 講義の前後で、余白の時間を作り、気軽に話し、学生間、または、教員に関心を持つきっかけをつくる。
- 学生個人では解決が困難な課題に対して、グループワークなどの共同作業を経験させチャレンジすることで、仲間の重要性に気づくよう促す。
- 同じ学科、同じコースの学生での交流の機会をつくる。
- 初年次教育の講義では、学生間の交流を促し、キャンパス内の仲間づくりのきっかけとしている。

【評価・成果】

- スポーツマネジメントコース開設に関わった。
- 講義を受講した学生からの評価・コメントで高い評価を得られている。
- オープンキャンパス、出張授業で「模擬授業」として対外的に教育内容を発信する。その際、高評価をいただいている。
- 卒業した学生がそのフィールドで活躍している様子が報告されている。
- 外部のコンテストなどで外部からの評価を得ている。

【目標・アクションプラン】

- 特にスポーツに関連する講義では、学内、キャンパス内に閉じこもらず、地域や外部団体と協働できるよう場を設定する。
- 講義ではない場で学習した成果を実践できる場をつくる、もしくは、そのような場に積極的に参加するよう仕組みをつくる。

以上